



## 「酒と肴」特集

後観連の平成 25 年度事業としてしりべし「酒と肴」をテーマとした広域観光推進会議が立ち上がり STS もメンバー入りします。管内の各種組織、団体にも声がけしたようですが残念ながら快諾とは成らなかったみたいです。「観光」という言葉が恒常化していますが本来は地域のオンリーワンを個々に楽しむ「旅」という言葉こそ合っているのではないだろうか？

地域の人やものに触れて楽しみ、堪能し心の通い合いを実感する「旅」に食と酒は潤滑油となります。「旅」にひと捻りの施策を講じれば、地元住民や事業者と共に迎え入れる体制もでき、何か元気ある地域だな～となり新たな地域力創成となるのではないのでしょうか？

歴史あるウイスキーや清酒や焼酎、新興ワインにビール。各地域の酒米を使った地域ブランド酒も沢山あります。肴に最適な水産や農産から生まれた加工品や郷土料理も豊富で北海道の農水産の縮図が垣間見える食材豊富な後志でもあります。

3月21日には第1回後志酒と肴をテーマとした広域観光推進会議が総合振興局講堂でハブ観光推進の札幌国際大学観光学部吉岡教授を招いて開催されます。

酒と肴をテーマにした試作は各地域でも単発的に開催され、これまでに積丹での歴史的建造物の番屋を使った企画や最近ではニセコ駅前での焼肉パーティ、20回を迎えた余市・ワインを楽しむ会などがあります。



小樽雪あかり開催期間中に開催されたしりべしコトリアドフェアは店舗での飲食数500ほど、テイクアウトは30ほどと報告されました。今後も続けて開催していきたいとの意向ではありますが事務局や経費捻出など課題多く審議中です。

テイクアウト10店舗のみ購入しましたが各店個性豊かでした！

余市でのワインを楽しむ会では400名以上参加。町民有志によるサイドメニューが人気でした。



## しりべしツーリズムサポートの25年度事業計画について

平成12年「滞在型観光交流空間づくりモデル事業」として後志ネットワーク構想検討が開始され20市町村における観光案内所（iセンター）の設置と情報共有のインターネットによるポータルサイト（iネット）の構築が始まりました。

平成14年には「広域ドライブ観光に関する総合的案内システムの実験」国土交通省社会実験（実験実施主体：後志観光連盟）として民間と行政の共働モデルとして全国でも画期的な社会実験が開始されました。当初4地域からのiセンターは19年には17箇所となり現在に至ります。

その間、しりべしiシステム事業運営部会、しりべしiシステム事業連絡会議と名称を変え、19年にしりべしツーリズムサポートが設立いたしました。有限責任中間法人から有限法改正に伴い一般社団法人になりました。平成19年10月よりJR 倶知安駅横に事務所開設。

運営経費削減しながらiネット運営、スタンプラリー、収穫祭、輪厚での観光PRなど行ってきましたが事務所への通勤事情や更なる経費削減で事務所を現在の倶知安から余市へ移転することが決まりました。（仮事務所予定です）

更に平成16年から開催していました「しりべしiセンタースタンプラリー」を費用、応募による各種データ結果からスタンプラリー事業の全面見直しを測り、より魅力的なラリーとするよう検討を始め、「iセンタースタンプラリー2013」は休止とさせて頂くことに致しました。

北海道新幹線の進捗で北檜山、北渡島、南後志の三地域がまとまりしりべしiネットをモデルとした広域観光推進団体形成が行われようとしています。その意味でもしりべしiネットは大事な資産であると思います。

事務所実務も一人でありますのでしりべしiネットの内容強化、時代に即した更にニーズ高い、アクセス数の高さを継続維持する事に第一目標を置いて、他事業展開を出来る範囲で取り組んでいきたいと思っています。

多くの仲間にご心配をかけてもおりますが、存在する意味と価値があることを信じて継続運営に頑張りたいと思っております。

事務所移転につきましては4月早々を予定し、それに伴う引越し準備、各種変更作業等をフル回転で行い皆様に再びお伝え致します。（しりべしツーリズムサポート事務局長 今井）

---

編集後記：モノは作ったら逃げださず懸命に頑張っていきたい。頑張っていれば必ず報われると家庭も含めて生きる性格。昨年に続く大雪はマンション暮らしでもしたいな~と思うし、いやいや彼の最後の言葉を思えば頑張るべ~と思い直す。震災から2年。FBにも書きましたがとても大切な家族や人を亡くすと三回忌までは法要で忙しく周りの人々も何かと気にかけてくれます。実はそこからが猛烈な孤独と喪失感に襲われるのです。親死ぬ、子死ぬ、孫死ぬという当たり前の順序を逸脱した被災された方々にはどれほどの孤独と喪失感が襲うか知れません。三回忌過ぎた今だからこそ被災地へ被災された方々の心の支えにより強くならなくてはなりません。原発が休止したまま電力需要多い冬も何とか越せました。本当に地球では処理できないものを生み続ける原子力は必要なのだろうか？と考えられました。これから数十年と故郷に帰れない人々、立ち入れない地域の映像を見るたびに考えさせられます。 今月は語るな~（i）